

(様式第4号)

上田市地域福祉審議会 会議概要

1 審議会名	上田市地域福祉審議会
2 日時	令和7年9月19日 午前10時から午前11時15分まで
3 会場	市役所本庁舎 2階 202, 203会議室
4 出席者	中村彰委員、古川友枝委員、佐藤暁委員、上原より子委員、小林功子委員、 内田守彦委員、金井浩一委員、大久保順子委員、新田さやか委員、澤路春代委員、 松井秀二委員
5 市側出席者	長田福祉部長、柳沢福祉課長、上田障がい者支援課長、西澤高齢者介護課長、 春原福祉課係長、川俣福祉課係長、佐藤福祉課主事
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年9月22日

協 議 事 項 等

1 開 会 (福祉課長)
2 福祉部長あいさつ
3 委員紹介
4 事務局職員紹介
5 協議事項
(1) 地域公益事業の実施に伴う意見聴取について (社会福祉法人 原峠保養園)
・ 資料に沿い、春原係長及び原峠保養園 徳永氏、中村氏から概要を説明
・ 以降協議
(委 員) 一番実感をしたのが、今は困っているお子さんの家庭がこんなにあるのかっていうこと です。身近にそういう子たちがいないと全くわからないので、その実情をお聞きしたいと思 います。あとこの倉沢ホームは女子バージョンということで、男子バージョンを今度新設と言 うことですが、四中地域ということは、やはり運営をしていく上で、近くにあった方が 運営をしやすいからなのではないでしょうか。
(保養園) 子供や成人も含めて、福祉の狭間にある人たちが結構いらっしゃいます。退所した子ども、 あるいは原峠とは関係のなかった方ですとか、あるいは障害のある方、精神的な障害のある 方など福祉制度で拾いきれない方が結構おられます。 そういう人たちに対して一時的な寝泊りできる場所を確保したい、あるいは、就業に向け た支援をしていきたいという園長の思いがあります。国や県の支援がない、福祉施策の狭間 にある人たちを何とかしていきたいという思いから、既に支援をしているところでござい ます。 それと男子バージョンの新設場所を四中区域内に希望をしている理由は、職員が兼務して おりますので、近い方が移動に便利だということです。それともう一つ、学校側の都合もあ りまして、四中や城下小では、昔から原峠の分校があるため、非常に理解もありますので、 そういう点で、四中区域にあった方がいいだろうと考えており、今探しているところでござ います。
(委 員) すわがたクリニック、倉沢ホームは賃貸ですか。
(保養園) 倉沢ホームは買い取りですが、今回探しているのは賃貸物件です。そのメリットとしま すと、補助金が全額出るので、賃貸にしたいということでございます。
(委 員) 制度的な質問ですが、今回の案件は社会福祉事業で残額が発生したら、ちゃんと使いな いという数字だと思うのですが、2ページの充実計画案だと、6年度で発生した6400 万円を令和7年と8年度の2年間で使用するということですか。

(保養園) その予定です。

(委 員) 社会福祉事業及び公益事業を始められるとのことですが、新規事業を始めることで運営費例えば人件費等の費用がかかると思うのですが、その部分は加味されているのでしょうか。

(保養園) 本日お話ししております社会福祉充実残額の使い道の 6409 万円については、人件費等は入っておりません。それらは別立てで考えていかなきゃいけないのですが、基本的には措置費でまかなっていく予定であります。

(委 員) 充実残額は何で今年が出たのですか。

(保養園) 充実残高が今年出た理由は、今まで当面は保育士の資格を持った方たちが主でしたが、社会福祉士や心理士を増員したことによって、諸々の県からの加算があり、雇うことによって 1 人当たり大体 500 万円が入ってきます。
これにより今年に関しては収益が大幅に増えたので、社会福祉充実残高が出たということになります。

なお、令和 2 年度にも社会福祉充実残額が発生していましたが、このときは公益事業ではなく、地域小規模児童養護施設を開設したいという計画でしたので、地域福祉審議会でお諮りしておりません。

(委 員) とっても良い計画だと思うのですが、社会福祉士さん、心理士の方を増やしたってということで、例えば子供の居場所のようなところは、保育士さん等のスタッフがいらっしやらないってことですか。

(保養園) プラスアルファで増員しています。保育士の人材はそのままです。社会福祉士さんは泊まり勤務ができないため、泊まり勤務というのは主に保育士さんがやってくれまして、プラスアルファで心理士さんとか社会福祉士さんを入れて、心の問題ですとか、プラスの事業をやっている形です。資格を持った方はもっと高度な保育士さんでは手に負えないような児童、心の悩みを抱えた子どもに対して、社会福祉士に審議し、協力し合ってより充実したケアをしているという形です。

(委 員) 場所的な問題ですが、子どもさんが歩いて行かれる場所としては、ちょっと難しいかなと思うんですが、そういう方たちのフォローも入っているのでしょうか。

(保養園) 今日お話ししておりますのは、原峠保養園の方ではなく、倉沢ホームという資料のとおり諏訪形にある施設の方です。実際に小学校 1 年生の子どもおりまして、歩いて通っています。大変なときは職員が送迎したりもしています。

(委 員) この場所まで親御さんが連れてこなければ子供食堂に通えないということが、ちょっと事業として、どうなのだろうと思うのですが、今お話をされたように建物をまずしっかりやりたいっていう考え方なのですね。それに伴って細かいところまでも計画の中に入れていただければと思います。

例えば、泊まりでシルバーさんをお願いすることもあると思うのですが、何かあったときに保育資格を持っている方が良いのでは。

(保養園) 児童養護施設では、当然専門職や保育士が泊ります。そのフォローとしてシルバー人材センターをお願いしていますけれども、主は専門職の保育士等の職員が対応するようにしております。

(委 員) 一番最初に説明していただいた地域公益事業に関する意見聴取についての資料の中で、「日常生活又は社会生活上の支援を必要とする事業区域」とありますが、事業区域とは上田

市のことですか。

(事務局) そのとおりです。

(委 員) 地域小規模児童養護施設の人員配置基準というのはどういうふうになっていますか。

(保養園) 県で決まっております、その基準配置基準に基づいて職員を配置しております。今女子の地域小規模に関しては、子ども 5 名に対して、職員が 4 名プラスシルバー人材センターにフォローしてもらっています。

(委 員) 資格要件は必要ないのですか。

(保養園) 保育士の資格要件があります。シルバー人材センターにお願いするのは、一般の方で大丈夫です。

(委 員) 何人ぐらいですか。

(委 員) 少なくとも 1 人入っており、数人でローテーションを組んでいます。
職員がご飯を作ったりですとか、それぞれ役割分担があって入っています。

(委 員) 児童家庭支援センターの所管は県ですか。

(保養園) 県でございます。

県の認可が下りないといけないのですが、法人としては、令和 9 年度に開設したいということとで事業を進めているところでございます。

(委 員) 資料 No. 2-1 の③の生活レスキューっていうのがあるかと思います。必要不可欠な母子寮みたいな施設ですね。

(保養園) 母子寮は、現在原峠保養園が指定管理委託を受けて、今年でもう 5 年ぐらいの事業でございます。場所は昔と変わってないです。常田の西友のちょっと北側にあります。施設は古いですが。

(委 員) この児童家庭支援センターの 4500 万の見積もりですけれども、建築費が相当上がっていて、計画的に大丈夫かなというところと、計画縮小する可能性もあるのかと思いました。

あと、地域小規模児童養護施設が増えることに対して、住民の方の反応などがあるのでしょうか。

(保養園) これはあくまでも、計画でございまして、まだ正式に見積もったわけじゃないのですが、社会福祉充実計画においては、5000 万円ぐらい使って作りたいと考えています。もし足りなければ、法人の方から負担するようになるかもしれません。

いずれにしても縮小するのではなくて、計画通り施設整備を進めていき、足りなければ法人から出すということになるかもしれません。

それと地域住民への説明につきましては、倉沢ホームの時もそうだったのですけれども、この四中と城下小区域というのは、昔から原峠保養園を運営しております、非常に理解がある地域です。今後は詳細が決まってきたところで、自治会長さんや近隣の方々にご説明をしてまいりたいと思っております。

(委 員) 大賛成の内容です、ところでこのような事業は市町村によって異なると思うのですが、理想とされているような市町村の取り組みはあるのでしょうか。

(保養園) 子育て支援課の協力がなければできない内容もありますので、連携を図っていきたいと考えています。

6 その他

- ・ 9/28「認知症とともに生きるまち上田」のイベント開催についてお知らせする。
- ・ 次回審議会は未定。開催することになりましたら、開催通知および資料の事前送付を行う予定。

